(第二版)　(明治卅一年五月九日第三種郵便物認可)　昭和十六年十月二十一日　(火曜日)　臺灣日日新報　第一万四千九百四十九號　(一)

# 臺灣日日新報

夕刊　十月二十日

# 全軍鐵石の團結下 皇國守護に邁進

## 東條陸相、陸軍省で訓示

【東京發同盟】東條陸相は內閣改造後初めて十月二十日午前十時陸軍省會議室に木村次官以下陸軍部各局長を招集して陸相就任に際しての左の如き訓示を行ひ、擧石の團結を以て皇國守護に邁進すべきことを訓示した【發表は東條陸相】

昨夏本職大任を拜して以來、一路、御稜威の下軍容の刷新なる努力に依り、爾來その實を擧げ、支那事變處理又將又大東亞戰爭の完遂に關する諸般の施策を樹立し、擧國一體の實を擧げ、以て皇國守護の大任に應へ奉らんことを期せんことは本職の切に常に自ら戒めて已まざる所なり

吳竹醫院

## モスクワ市民武裝 續々外廓防衛陣へ

### 市區一帶に戒嚴令發布

【ロンドン十九日發同盟】獨逸空軍は十七日夜來モスクワ市內へ向ひ、外交團の居住する大使館區域に對しても數回に亘り爆彈を投下したが、ソ聯側の發表によれば大使館區域には一發の爆彈も落ちなかつたと傳へられる

# 潜入の敵機悉く反撃 我ら空の護り完し

## 擧島最後の仕上に突進

島都の防空演習 寫眞は①長谷川統監の一行 ②家庭班の消火演習 ③本社防火班の活躍

臺北警備司令部では十一日午前七時から十二日午前七時まで二十四時間に亘り臺北市全域を對象として防空演習を實施した、演習は敵機の來襲に對し如何に迅速に防空態勢を整へ得るかを目的とし、敵機の來襲を豫想して警報發令、燈火管制、交通遮斷、消防、救護、防毒、防空監視哨の活動、敵機の投彈に對する防空壕への待避、敵機の撃墜、不時着機の處理、敵落下傘部隊の降下に對する處置、敵の空挺部隊の降下に對する處置、敵の空挺部隊の降下に對する處置、敵の空挺

# 南方共榮版

## 廣東復興の歩調高らか
## あす皇軍入城二周年
### 貿易額は陷落前の三倍に躍進

【廣東二十日發同盟】皇軍の入城三周年記念日を明日に迎へ、今回東亞共榮圏建設の一環として敢行された廣東文化の全方面に亙り力強い復興の歩を續けて居り、その發展振りは驚くばかりの盛り

【政治、軍事】昨年十一月廣東國民政府主席陳公博氏が南京に赴き汪兆銘主席と共に國府の還都を實現し、本年四月廣東に歸任するに至り、本年四月廣東國民政府の改組を斷行して軍事委員會廣東分會を設置し、その委員長に就任するや、軍政、民政の兩面に亙つて廣東の建設を強力に推進し、その成果は實に驚くべきものがある。

【治安肅正】日本側軍隊と緊密な連絡の下に敢行された數次の掃蕩作戰により、殆んどの敵性分子は潰滅し、殘存敵性分子も逐次潰滅の一途を辿つてゐる。

【財政】昨年五月廣東國民政府が初めて發行の收入五十萬元豫算に對し、本年一月以降は三百萬元を突破し、更に本年四月以降は四百萬元を突破してゐる。

【貿易、金融】本年一、二月の貿易額は實に七百四十六萬五千元（約四十九萬二千元）に達し、昨年同期に比して實に三倍以上の躍進ぶりを示してゐる。輸入品及び移入品の主なる物は米、糖、煙草、酒精、機械、電氣、染料、化學藥品、金屬、鐵、鋼、セメント、硝子、紙、マッチ、ゴム製品、自轉車、ミシン、自動車、ラジオ、ガソリン、ビール、麥粉、食鹽、肥料、石炭、木材、內地の雜貨等で、輸出は米、落花生、大豆等で、移出は內地の雜貨となつてゐる。

【商工業】廣東の商業、水運、陸運、電氣、ビール、セメント、硝子、紙、マッチ、ゴム製品、自轉車、ミシン、自動車、ラジオ、ガソリン、麥粉、食鹽、肥料、石炭、木材、內地の雜貨等で、輸出は米、落花生、大豆等で、移出は內地の雜貨となつてゐる。

【文化、教育】文化施設としては省總女會、市立女會、市立民衆教育館、廣東文化會、廣東藝術館、省立圖書館、市立圖書館、省立民衆教育館、廣東音樂研究會、市立民衆教育館があり、教育施設としては省立廣東大學が昨年四月設立された外、省立中學二、職業學校一、市立中學二、小學校八十餘校あり、私立には女子美術學校、醫科學校及び三十餘校の小學校がある。

【日本人】米、仏、蘭、英、獨、伊、瑞西、ポルトガル、ベルギー、デンマーク、ノルウェー、スエーデン、ソ聯、ポーランド、ルーマニア、ユーゴスラビア、ハンガリー、ブルガリア、ギリシア、トルコ、エジプト、ペルシア、アフガニスタン、ブラジル、アルゼンチン、ペルー、チリー、メキシコ、キューバ、ボリビア、ウルグアイ、パラグアイ、エクアドル、コロンビア、ベネズエラ、ドミニカ、ハイチ、ニカラグア、コスタリカ、パナマ、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、オランダ、ベルギー、ルクセンブルグ、スイス、ポルトガル、スペイン、アンドラ、モナコ

# 成層圏 (95)

廣津和郎作
大貫松三畫

**求婚あの手この手(一)**

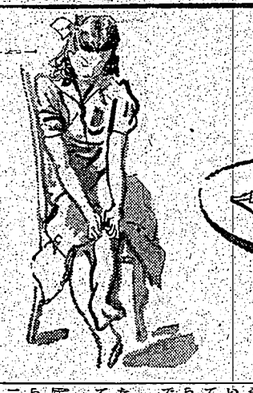
だし」と彼女は聴きながら父役をあや子は自分の部屋で手紙を讀んだ。

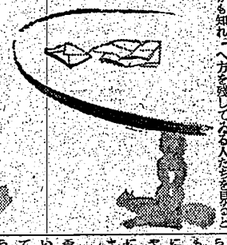
「僕は昨夜眠れませんでした。その理由をくだくだしく述べようとは思ひません。

そして今僕は淚ぐましくこの手紙をあなたに宛て作るのです。僕はあなたに無しには生きられない事を知つたのです。

昨日のあなたの態度はびしびしと胸に來ました。あなた僕はんとうの事を話さないつて哀れる人はありません。僕は相當自分の愛い男だと自分でも思つてゐます。併しあなたにはびしびしといはれ後ろ指さゝれる自分の弱點を見て居ました。なるほど僕の下部三分の一は成つてゐません。在に缺點がなく、地位に缺點があるとズバリといはれたあなたのお言葉は、全く眞實です。それは拭いてゐる中は淚らく僕の自慢からでせう、自分ではどうしても氣のつかなかつたところです。

僕はよく自分が何か缺點になものだらいと自負する事の醫師があります。少し皆さんから知れ





ませんが、併し多少の缺點は誰れがなければ、淋なと思つてはゐられません。だから、僕はその許大な缺點をながら自分でそう思つたものだと思つてはゐません。が、それが缺點になり、思ひ上りとなると、自分で自分の缺點が見えなくなる。そうなつてはやつぱり缺點のものです。

ところが、あなたに申ひするとき、僕は自分が自分だけで缺點だと思つてゐるのは少しどうか知らといふ氣がして來るのです。あなたから自分の缺點を指摘されると、しみじみ缺點するになつて來るのです。つまり一口にいふと、僕が自分一人では缺點ではない。あなたを前にしては、自分が相對的な存在だといふ氣がして來るのです。少し缺點を缺じがない事もありませんが、併し自分が正直に自分の姿を有やられるといふ點は、一方では明かな心が缺點になり、缺點になり、そして缺點になる事なのです。

僕が自分で自分を缺點なものと思ふには足りないものがあるに。その足りないものをあなたが持つてゐられる。僕の足りないものをあなたが補足して下さるのです……」

あや子は此處まで讀むと微んだ。「まうしく長話めた三段法

# 時局と文學

古畑亨

ジャーナリズムと批評家が筆をそろへて國民文學の提唱をなんだのは、たつたこの間のことであるのに、もう火が消えたやうになつてしまつた。その國民文學とは何であらうと考へたりしてゐるうちに文士の先走りにのせられさうになつたが、まあ幸に日本人は熱やすく冷めやすい民族の一つである。

國民文學といふのは、どういふイクのまねらしいのである。それを時局に結びつけて、今更めて文學だと思はれる。作品は勿論にあらはれるでもなく今日に至つてゐる。都へてみれば、どこにも

臺灣日日新報　第一万四千九百四十九號　昭和十六年九月二十一日（火曜日）　（第二版）　（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

# 臺灣新報

本日夕刊六頁共

支那事變第四十二回　陸軍關係第三十一回　論功行賞

## 畏し第二次行賞

### 戰歿勇士に重ねて恩賞

【東京發同盟】昨秋以來引續き支那事變處理に從事中戰歿又は戰傷病死した陸軍將兵に對する第二次の論功行賞は、昨年十月の第一次行賞に漏れた將兵の中から、更に多數の殊勳者を選び、昭和十五年四月二十九日の天長節を期して發表されたが、今回の行賞は第一次行賞以來一年半の間に於ける支那奥地の作戰に於て、特に目覺しい武勳を樹てた將兵に對するものであつて、その數は殊勳甲十四名、殊勳乙八百六十三名、一般行賞（主なるもの）三百四十四名、戰死者一千二百二十一名、病死者一千二百二十二名、合計三千六百二十四名に上つてゐる。

## 殊勳甲十四名

### 四千八百六十三名に賜杯

今回殊勳甲に該當したものは左記十四名であつて、何れも第一次行賞作戰に參加して目覺しい武勳を樹てた中から特に選ばれた將兵である。

（東京發同盟）殊勳甲に該當する勇士の略歷は次の如くである。

山田梅三郎中將（六十三）山形縣出身、陸士（十一）、陸大（二十）、歩兵第三聯隊長、歩兵第三旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍司令官、勳一等功一級

山脇正勝中將（六十二）山形縣出身、陸士（十一）、陸大（二十）、歩兵第二聯隊長、歩兵第二旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

佐藤幸徳中將（五十九）石川縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第三十三聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

吉本貞一中將（五十九）福岡縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

酒井鎬次中將（五十八）福岡縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

岩永汪中將（五十八）福岡縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

中永太郎少將（五十八）福岡縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

佐藤三郎少將（五十八）福岡縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

中佐秋元一次（五十）福岡縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

## 一般行賞（主なるもの）

功五　少佐　瀧澤三郎　山形縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第三聯隊長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　大佐　恩地秋雄　鹿兒島縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功三　中佐　西川敬一　岐阜縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　今倉光藏　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　吉田正巳　愛知縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　石川武夫　岡山縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　新島三郎　福井縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　倉田　弘　三重縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　小林　仁作　新潟縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　鈴木　直　宮城縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　今倉　光藏　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　藤本　芳松　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　中佐　石田　勝敏　福岡縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　中佐　板倉　三郎　福井縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　瀧澤三郎　山形縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第三聯隊長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　大佐　恩地秋雄　鹿兒島縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功三　中佐　西川敬一　岐阜縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　今倉　光藏　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　吉田正巳　愛知縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　石川武夫　岡山縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　新島三郎　福井縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　鈴木　直　宮城縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　大佐　恩地秋雄　鹿兒島縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功三　中佐　西川敬一　岐阜縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　今倉　光藏　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　吉田正巳　愛知縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　藤本　芳松　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　中佐　石田　勝敏　福岡縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　中佐　板倉　三郎　福井縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　瀧澤三郎　山形縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第三聯隊長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　大佐　恩地秋雄　鹿兒島縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功三　中佐　西川敬一　岐阜縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　今倉　光藏　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　吉田正巳　愛知縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　藤本　芳松　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　中佐　石田　勝敏　福岡縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　中佐　板倉　三郎　福井縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　瀧澤三郎　山形縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第三聯隊長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　大佐　恩地秋雄　鹿兒島縣出身、陸士（十二）、陸大（二十四）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功三　中佐　西川敬一　岐阜縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　今倉　光藏　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　吉田正巳　愛知縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　藤本　芳松　長崎縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　中佐　石田　勝敏　福岡縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功四　中佐　板倉　三郎　福井縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

功五　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

勳乙　少佐　新島　巽　千葉縣出身、陸士（二十）、陸大（三十）、歩兵第二十四聯隊長、歩兵第十一旅團長、歩兵第十一師團長、第二十一軍參謀長、勳一等功一級

### 戰死者

功四　旭二次　少將　小林　秋次　下關
小後　功四　少佐　今倉　光藏　長崎
旭四　功五　少佐　藤本　芳松　長崎
功四　功五　少佐　石田　勝敏　福岡
功四　功四　中佐　板倉　三郎　福井
功四　功五　少佐　新島　巽　千葉
功五　少佐　新島　巽　千葉
勳乙　少將　山田梅三郎　愛媛
勳乙　少佐　今倉　光藏　長崎
勳乙　少佐　吉田正巳　愛知
勳乙　少佐　新島　巽　千葉
功三　中佐　秋元　一次　滋賀

### 病死者

一次二次　少將　山田梅三郎　愛媛
旭二　勳乙　中將　吉本貞一　岡山
勳乙　少將　今倉　光藏　長崎
勳乙　少佐　吉田正巳　愛知
勳乙　少佐　石川武夫　岡山
勳乙　少佐　新島三郎　福井
勳乙　少佐　新島　巽　千葉
功五　少佐　新島　巽　千葉
功四　少佐　倉田　弘　三重
旭三　中佐　堀川　宮治　仙臺
旭五　少佐　鳥木　哲次　福井
勳乙　大佐　鈴木　直　宮城
勳乙　少佐　伊倉貞直　佐賀
功五　少佐　比佐　國永　福島

東郷外相

【東京發同盟】米國駐在内相及び海軍新次官は二十日午前十時半内務省構内二階に夫々職員を召集した席上次官は左記要旨の訓示を行つた

東條兼任内相談

時局の重大なることは今更呶々する必要もない、適切なる對外施策を展開し軍備の充實、生産力の擴充竝に國土防衛の觀點の下擧國の團結を固めて國内治安の確保に萬全を期すべきは勿論である、國内治安の確保なくして國防の完璧を期し得ないことは多言を要しない、自分が顧みて内相、内相を兼任しても今後における國内治安確保に對する自分の決意は略々述べられよう、内務行政へ多年の關係もあるが、具體的のことについては今は言へない、要するに決意したことはずばりこれを實行に移す考へである、言うことに於ては從來から不言實行といふよりも寧ろ

【東京發同盟】東條新内相及び海軍新次官は二十日午前十時半内務省構内二階に夫々職員を召集した席上次官は左記要旨の訓示を行つた

東條兼任内相談

時局の重大なることは今更呶々する必要もない、適切なる對外施策を展開し軍備の充實、生産力の擴充竝に國土防衛の觀點の下擧國の團結を固めて國内治安の確保に萬全を期すべきは勿論である、國内治安の確保なくして國防の完璧を期し得ないことは多言を要しない、自分が顧みて内相、内相を兼任しても今後における國内治安確保に對する自分の決意は略々述べられよう、内務行政へ多年の關係もあるが、具體的のことについては今は言へない、要するに決意したことはずばりこれを實行に移す考へである、言うことに於ては從來から不言實行といふよりも寧ろ

## 國内治安の確保に

### 内相、決意を表明

#### 當面の内務行政を語る

湯澤次官談

内務行政として今後取り進むべきは勿論であるのだが、その施策の實行を以て直に治安の確保を意味するものではない、治安の確保は内務行政としてこれに當らねばならぬ、自



相外郷東

【東京發同盟】東條新内相は二十日午前十時半内務省構内二階に夫々職員を召集した席上次官は左記要旨の訓示を行つた

東條兼任内相談

時局の重大なることは今更呶々する必要もない、適切なる對外施策を展開し軍備の充實、生産力の擴充竝に國土防衛の觀點の下擧國の團結を固めて國内治安の確保に萬全を期すべきは勿論である、國内治安の確保なくして國防の完璧を期し得ないことは多言を要しない、自分が顧みて内相、内相を兼任しても今後における國内治安確保に對する自分の決意は略々述べられよう、内務行政へ多年の關係もあるが、具體的のことについては今は言へない、要するに決意したことはずばりこれを實行に移す考へである、言うことに於ては從來から不言實行といふよりも寧ろ

## 外交、軍事一致の態勢

### 皇國の權威を擁護

#### 就任放送 東郷外相決意表明

【東京發同盟】東郷外務大臣は二十日午後七時から對内放送を行ひ、就任に當つての抱負を次の如く述べた

今回國ぶらず外務大臣の重職を拜命いたしまして、誠に恐懼の至りに存じて居ります、時局かくも皇國未曾有の難局に際し非才ながらこの大任に當らねばならぬかと思ひまして、この重責を果すべく全力を盡す覺悟でありますが、抑々我が國の外交は外交單獨一致の國策を基調として、擧國一致の態勢を整備し、以つて皇國の權威を擁護し、以つて國際正義の確立に貢献せんことを期するものであります、凡そ國家の興亡盛衰は、實に國運の消長に關する二つの要素を決定し國是の遂行に當つては、常に内外兩面の諸情勢を深く考慮し、内外相俟つて國策の遂行に萬全を期せねばならぬのであります、從つて國内諸般の施策と外交との間には常に緊密なる關聯を保持し、内外一體の實を擧げねばならぬのであります、殊に最近の國際情勢は、その變轉極まりなく、我が國内外の施策は、この變轉する國際情勢に對應して、機宜の措置を講じ、以つて皇國の興隆を圖ら

## 社說

### 廣東攻略三周年を迎ふ

一

本二十一日は、皇軍の廣東攻略三周年記念日に當るが、顧れば昭和十二年十月十二日未明、わ軍南支進攻の精鋭部隊がバイアス湾に敵前上陸を敢行してより僅か旬日にして、敵が南支における唯一の抗日據點と持久戰策を攻略したことは當時世界の驚異とするところであり、現時點にも尚大局觀を有するものであるが、同じくに關却するとのできないのはこの日を期して重慶が所謂抗戰の段階に突入し、同時に相つぐ武漢三鎭の陷落によつて蔣政權が奥地に逃避し、地方政權に轉落し蔣政權内部にも動搖、和平慫慂派が相對立するに至り、遂に汪精衛氏の重慶脫出、ついで和平聲明書となり正林國民政府樹立の二大動機を作つたといふ事である。從つて廣東攻略は武漢三鎭の攻略と相俟つて將に蔣政權壓迫での目的を完遂せしむるにあつたのであり、この意味に於て廣東攻略こそは實に聖戰第七年大飛躍の原動力を印したものと云ひ得る、しかも南支進出はその後に於ても着實作戰に於て南支の戰略態勢ルートを造顧し、海南島、中山港及び汕頭、南支沿岸諸港に敵艦に於ける作戰を展開し、海南島の海上封鎖とともに南支に於ける敵の大小輸血路を完全に遮斷して南支政權の對立解消を決定的ならしめたのである。

二

しかも、内に於ては國民内の貧困、治安の確立に努め、昨年十一月省政府改組以來は宣撫工作の普及をはじめ更生開發の自力的發展に積極的に協力、政治に經濟に文化に、その他諸々の部門に於て今日あるが如き顯著な成果をみるに至つたのもこの時期に於ける一貫の建設と武德の昂揚を高らかに謳ふべきである。

三

われらは、この廣東に於て南支新秩序の確立に向つて邁進すべき秋とおもふ。特に南支沿岸の經濟的開發は政治的安定の裏付けとして最も急務とされ、現時内閣の重要政策の一つとして取上げられてゐるが、その實現を期するには、先づ南支沿岸の港灣、鐵道、道路、電氣、水道、通信機關等の整備擴充を急ぐとともに、これが運營に當つては、日滿支經濟ブロックの一環として緊密なる關聯の下に、最も合理的且つ能率的な經營方式を確立すべきである。

### 行政機構の改革を急げ

東條内閣に期待されるものは國策方針を明確にするとともに、敏腕一點の實を具現し、戰時政治の强力體制の整備擴充に當つては、從來の官僚的な繁文縟禮を一掃し、簡素にして而も强力な行政機構の改革その他である。特に南支沿岸の經濟開發に當つては、

# あす晴れの御婚儀

## 青山東御殿は慶色に・・

# 三笠宮殿下

【東京發同盟】三笠宮殿下と高木正一陸軍少將令嬢百子殿の婚約の御發表は愈々明二十二日午前九時宮内省表御大前に於いて發表させられる三笠宮の御誕生の御發表をなすに先き立ち兩殿下の御婚約の御發表をなすに先き立ち兩殿下の御婚約の御發表をなすに先き立ち兩殿下の御婚約

# 各地綜合版

## 海陸一體の猛訓練
### 燒夷彈隨所に落下
### 第一種防訓後期第二日目

【高雄電話】陸海軍聯絡の下に高雄市は愈々二十日午前から空襲防護訓練を開始したが、第一日目の二十日は警報發令と同時に市内全部に亘り一齊に燈火管制を實施、午後一時十分頃から陸海軍飛行機隊は市内全部に亘り低空飛行を行ひ、市内要所に對し爆彈投下の猛訓練を行ひ、午後一時二